

ノイエ・ファーネ
からのご提案

“現状のままで何とかなるだろう…”という意識は残念ながら通用しない!この意識に変容を促していくため、若手・中堅社員に刺激を与えて組織に「健全な下剋上」意識を創り出す!

対象
若手・中堅社員



— 求められるのは変化対応への備え —

「働きの意識」を再確立する ワークショップ

若手・中堅社員層は、世代の異なる先輩や直属上司の仕事観にどうしても左右されるものだ。ところが、企業組織では若手・中堅社員層の模範となるべき先輩や直属上司である管理職層は、得てして知らず知らずに現状に安住しがちな傾向に陥っている。その理由は、彼らは間違いなく高度成長期に先頭に立っていた二世帯ほど前の先輩や上司からの指導を受けて価値基準を刷り込まれてきたからだ。そのため、ある種の過去の「成功体験」である成長期の意識から抜け切れていない。

こうした傾向の強い管理職層に若手・中堅社員層の育成を任せきりにしては、若手・中堅社員層への「意識へのゆさぶり」や「行動変化を期待することはできない。

過去の成功体験や順風期を経験した管理職は、悪くすると自分基準に固執するあまり、若手・中堅社員層を上手に指導育成を放棄＝逃げてしまう危険性もある。

企業内研修は本来的には管理職層の強化を通じた、部下育成に対する役割意識の変化を促すことが本筋である。もちろん管理職の意識改革も不断に必要なが、日常業務の多忙さにより若手・中堅社員層への働きかけが不十分な管理職層に育成を任せってしまうと安定志向が感染してしまう危険性もある。そこで「次代を担う」若手・中堅社員層には直接的な働き掛けが不可欠となる。

若手・中堅社員層に“現状のままで何とかなるだろう・・・”という意識を払拭してもらうため、自分たちに求められる変化対応について刺激を与えて活性化させて組織内の「健全な下剋上」意識を創り出していくことが重要ではないか。

若手・中堅社員に求められる“働きの意識”

- ◆“これまで通り”では自分も会社も「負ける」=駆逐されるという危機感
- ◆「負けたら必ず取り返す」というアニマル・スピリッツ(“野獣性”の回復)
- ◆「自己の目標設定」による「自己管理」に基づいた“利益”への執着心
- ◆上からの指示をあてにせず、自分で思考しながら上を乗り越える自立(独立)心
- ◆陥りがちな“毎月給与が支払われる”との“根拠のなくなった誤った安定志向”からの脱却
- ◆危険性を察知し、周りを巻き込んで改善していく機転と勇気

ワークショップのテーマ例

- ・組織コミュニケーションの意味と内的モチベーションの源泉とは何か
- ・給料は会社から「支払われる」ものではないという意味の理解
- ・会社を構成する数字の意味理解と各種の指標で自分の働き方をチェックする
- ・従来の“ビジネスモデル(儲ける仕組み)は通用しなくなる”危機感を持って臨む
- ・職場組織での「働く意味づけ」と「部下力」の発揮が業績の向上につながる

開催例

- ・企業内の会議室等で平日の終業後に開催(毎回90分から120分)
- ・参加人数 10~15名
- ・毎回2~3テーマに基づいて講師(ファシリテーター)による辻説法方式で参加者相互の討議を通し、仕事を自分のミッションと意識化させる。

ご不明点、ご質問等がございましたら、下記【お問い合わせ欄】にご連絡先をご記入の上、FAX送信下さい。折り返し担当者よりご連絡いたしますので、具体的な内容についてはご記入いただかなくても結構です。

【 お問い合わせ欄 】

住所	_____		
会社名	_____		
部署	_____	役職	_____
御名前	_____		
TEL	_____	FAX	_____
E-mail	_____		
通信欄	_____		

送信先 → 03-5297-1880

発行人 株式会社ノイエ・ファーネ
101-0046 東京都千代田区神田多町2-7-3 三好ビル2階
TEL 03-5297-1866 FAX 03-5297-1880 <http://www.n-fahne.jp>